

一、傍線部を口語訳せよ。

- 1 世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし (伊勢物語) [] []
2 まはりをきびしく圍ひたりしこそ、少しことさめて、 (徒然草) [] []
3 山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり (古今集) [] []
4 ゆく水に数かくよりもはかなきは思はぬ人をおもふなりけり (伊勢物語) [] []

二、傍線部の助動詞の活用形を答えよ。

- 1 なにごとの憂かりしぞ。 (栄花物語) [] []
2 死にし子、顔よかりき。 (土佐日記) [] []
3 見わたせば花も紅葉もなかりけり浦の とまや 秋の夕暮れ (新古今集) [] []

三、空欄に助動詞「き」を活用させて入れよ。

- 1 竜の首の玉をえ取らざりしかばなむ殿へもえ参らざり ()。 (竹取物語) [] []
2 いつはりのなき世なり () ばいかばかり人の言の葉うれしからまし (古今集) [] []

四、空欄に助動詞「けり」を活用させて入れよ。

- 1 この男、垣間見て ()。 (伊勢物語) [] []

4 3 2 1 一
桜がなかつたら
困ってあつたのは
紅葉だつたのだなあ
思うことだなあ

3 2 1 二
連体形
連体形
終止形

2 1 三
せし

1 四
けり